

# 児童生徒の心に響く 褒め言葉・認める言葉を掛けよう

## プログラムの ねらい

- 教員が児童生徒の心に響く褒め言葉や、認める言葉にはどのようなものがあるのかを知る。
- 言葉を掛ける際の留意点について理解する。

## 児童生徒の発達を 「ささえる」 ポイント

- ③-1 心に響くポイントを理解した上で褒める・認める言葉を掛ける。
- ③-2 児童生徒の実態や特性に応じて声を掛ける。

### 児童生徒の心に響く言葉を掛けるために

- 言葉掛けの種類やパターンを知る
- 実践していくために意識を高める

知る・意識を高める

「褒める・認める言葉集」を多くの場で目にする環境をつくる。

例えば・・・

- ①週案や手帳の1ページ目に貼る。
- ②職員室、給湯室など、多くの先生方が利用する場所に掲示する。
- ③職員用トイレに掲示する。

- 言葉を掛ける際の留意点を意識しながら、児童生徒への言葉掛けを行う

留意点を意識しながら言葉掛けを行う

ただ「褒める・認める言葉」を掛けるのではなく、留意点を意識しながら言葉掛けを行い、児童生徒との関わりを積み重ねていく。

言葉掛けのバリエーションの増加や、児童生徒理解の深め方など、児童生徒の心に響く声掛けを行うためのスキルを体得していく。

児童生徒を褒める・認める言葉

- あなただからこそお願いしたい
- あなたのおかげだよ
- あなたに任せてよかった
- あなたがいるだけで安心だよ
- ○○さんがあなたに感謝していたよ
- 生き生きしているね
- いつも進んで活動しているね
- 笑顔がいいね
- 笑顔に救われたよ
- ○○さんからエネルギーをもらえるよ
- 思いやりがあるね
- 輝いているね
- 感動したよ
- 頑張っていたこと、見ていたよ
- 君ならできる
- 君らしくていいね
- この前よりレベルアップしたね
- さすがだね
- さっきの言葉 とってもうれしかったよ
- 集中しているね
- すごく助かったよ
- すばらしいね
- 先生も知らなかったよ
- その気付きをみんなに広げたいね
- その丁寧さは職人技だね
- その努力をみんな見ていたよ
- そのままでいいと思うよ
- それがあなたのいいところだよ
- 頼りになるね
- どうやったのか教えて
- ナイスチャレンジ
- 納得したよ
- 前より上手になっているね
- まねしたくなるほど上手だね
- みんなに教えてくれるかな
- やっぱりあなたに頼んでよかった
- よく気がついたね
- 私（先生）もううれしいよ
- 私（先生）もそう思うよ
- 私（先生）も見習うよ
- 私（先生）もやってみたいな
- 優しいね
- ○○先生の期待を超えたね
- ○○先生が褒めていたよ
- ○○先生は頑張りを見ていたよ

児童生徒を褒める・認める時の留意点

①児童生徒が褒めてほしいところと、教員が褒めているところにズレはありませんか？

ズレがあると「先生は私のことを分かっていない（見ていない）」と褒め言葉が不信感につながってしまうおそれがあります。そうならないために「しっかりと観察をして褒める（認める）」「感想を聞いたり会話をしたりして、頑張りやプロセスを把握してから褒める（認める）」つまり児童生徒理解とセットで褒める・認める言葉を掛けましょう。

②「褒める」だけでなく「認める」ことを意識していますか？

「褒める」は一定の条件をクリアしたことに対する賞賛であり、比較的声を掛けやすいものです。一方「認める」は条件をクリアしたかどうかを度外視し、自主性やプロセスを尊重した声掛けです。

③ただ褒めて終わっていませんか？

「褒める」ことは自己肯定感の向上につながるとても大切な働き掛けです。ただし、教員として時には問題行動に対して毅然とした対応が必要であることを忘れてはなりません。「自信」というより「過信」となり「叱られる自分」を受け入れられなくなってしまうおそれがあります。